

ダットタッチホーム 設立に寄せて

この法人は『広く市民に対して、老若男女を問わず、地域のコミュニケーションの核となる「居場所づくり」に関する事業を行い、地域の人々との繋がりを創出する。そして「ありがとう」が循環する社会の実現を目指し、もって地域の人々の豊かで充実した生活と社会づくり、福祉の向上に寄与すること』を目的として、NPO 法人チェロ・コンサートコミュニティを引き継ぐ形で誕生いたしました。

小さな子が「だっこして！」とうまく言えなくて「だっとっち！」
誰かと誰かが地域でつながり、一つでも多くの笑顔を生み出せたらという思いで活動しています。

その為の手段としてだれもが利用できる「dattochi みんなの食堂」、放課後の子ども達の居場所&ツリーハウスづくり「あそび場だっとっち」、年に一度のファミリーフェスティバル「ファミリーフェス in はちおうじ みんなのキャンパス」等を運営しています。

また、食の提供事業や居場所事業を横断して行う活動として、ファミリーフードバンクファーム（八王子の里山での農体験&収穫した野菜は自団体に使用するだけでなく他子ども食堂やフードバンク等へ寄付）、そして、引継ぎ元のチェロ団体からチェリストが理事として在籍してくれているため、食堂やファミリーフェスの開催時にコンサートを催したり演奏体験ができる場を設けたりもしています。

【法人化にあたり】

今回、法人として申請するに至ったのは、任意団体として実践してきた活動や事業をさらに地域に定着させ、継続的に推進していくことと、地域全体へ活動を広げていくために行政や関連団体との連携を深めていく必要があること等の観点から、社会的にも認められた公的な組織にしていくことが最良の策であると考えたからです。また、当団体の活動が営利目的ではなく、多くの市民の方々に参画していただくことが不可欠であるという点から、特定非営利活動法人格を取得するのが最適であると考えました。

また当法人は、人の根源的な欲求である「食の欲求」や「安全の欲求」といった部分から、より高次の欲求と言われる「楽しみの欲求」「自己実現の欲求」といった様々な段階の欲求に少しずつアプローチする手段を持っているという特徴があります。

ひとつひとつでは点であるものが、点が繋がって線になり、それが面となってより複合的な関わりが可能になるのではないかという思いもあり、複数の事業を内包する組織となりました。

さまざまなタッチポイントを持つ強みを生かし、地域に繋がりを生み出し、暮らしに寄与する NPO でありたいと考えています。

高度成長期が終わり、新しい価値観を社会が受け入れていく途中段階の昨今、今を生きる人達に「困ったときに頼れる人がいた」「街ですれちがった誰かと手を振りあった」「暮らす街で楽しくてワクワクするフェスを楽しんだ」そんな経験を提供し、追いつめられる程に困った事態になったときにも「一人ではない」と感じてほしい、自暴自棄にならないでほしいとも考えています。

*以下、ダットタッチホームとしてスタート時に作成した設立趣意になります。

現状は実際の活動状況に沿ったものとして食堂、居場所、イベントを事業としておりますが、根底に流れる思いは現在も変わらないため、そのまま掲載いたします。

【子どもたちの居場所・冒険遊び場】令和3年度、文部科学省が打ち出した GIGA スクール構想によって、子ども達に一人一台の端末が支給される事が決定いたしました。Society5.0 時代を生きる子ども達に、ICT を基盤とした先端技術の活用を促し、個別最適化された創造性を育む教育の実現を重要視した政策となっています。

今後子ども達はタブレットを使用し、色々な知識を当たり前のようにそこから得ていく時代がやってきます。それ自体はとても素晴らしい教育環境ではありますが、一方で、「原体験」と呼ばれるものの重要性も非常に大切だと私たちは考えます。

火に近づけば熱い、トンカチを間違えて打てば指が痛い、どろどろの坂道は足の置き方に注意をしないと転ぶ、そういった人間が元々持っていた野生の勘のような感覚は、タブレット上で指を動かすだけでは得られない、生きていく為に必要な大変重要な感覚であると考えます。願わくば、ICT 教育とリアルな体験というのは両軸で子どもたちに用意されているものであって欲しいとの思いを強くもっております。

その「原体験」の宝庫ともいえる「冒険遊び場・プレーパーク」と呼ばれる活動が、全国各地で開催されています。

見守り力のある研修を受けた大人（プレイワーカー）を配置し、焚火や水遊び、工具体験など、普通の公園では禁止されている活動も、積極的にやらせてあげようという取り組みで、400 か所を超える団体が日本にすでに存在します。市政との協働での事業となっている団体は常駐でプレイワーカーがいる場合も多く、小さな子ども達の為だけでなく、未就園児を抱えた母親の息抜き場所・不登校に悩む中高生など、幅広い世代のサードプレイスとして地域の重要な拠点となっています。

八王子ではまだ、有志の市民団体が月に 1 回程度の活動をするにとどまっております、これからのタブレットを抱えて生きる子ども達に、原体験が出来る場を提供することは、急務と考えております。

【子ども食堂】平成 26 年度に施行された「子どもの貧困対策の推進に関する法律」により、`子どもの貧困`について総合的な取り組みが始まっております。

この法律では「子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備する」と明記されております。

八王子の貧困状況としましては、平成 30 年に市が発表した「子どもの生活実態調査報告書」によりますと、約 20%強の世帯にて生活困難とのアンケート結果が出ています。

都調査と比較して、ひとり親世帯や無職といった経済的に不利な属性の世帯が少ない一方で、生活困難度でみると、若干高い傾向にあり、小学 5 年生では困窮層が 5.7%、周辺層が 17.3%、中学 2 年生では困窮層が 9.9%、周辺層が 18.0%となっています。

このような事情によって教育格差が強まり、子どもの貧困が増幅することになれば、未来を担う人材育成にも影響があり、社会的損失にもなると考えます。それゆえ、少しでも早く貧困の連鎖を断ち切り、経済状況に関わらず子ども達が将来への可能性を感じ未来を築いていけるようにする対策が必要と考えます。

子ども食堂を私たちは「みんなの食堂」と銘打ち、子どもだけでなく、生活に不安を感じる人が誰でも訪れることのできる食料配布の場になるように心がけています。そして、地域に「気にかけてくれる誰か」の存在があるという事を、継続的な事業をもって伝えていきたいと考えます。

【つばめ塾キッズ】子ども達が落ち着いた場所で自分に合った学習指導や進路指導を受けられる環境を用意する事で、子どもたちに希望を感じてもらい、心身の成長を助けていきたいという思いが強くあります。

八王子にはつばめ塾という、長房出身の小宮氏が立ち上げた無料塾が存在します。

自身が苦労した経験をもとに震災後に氏が一人で取り組みを始めた無料塾は、今では八王子市にて生徒 80 名、講師 70 名、7 教室の規模となっており、ここで学んだ生徒が又教師としてボランティアに携わってくれるという、小宮氏の「いつか自分も人の役に立てる人になろうと思ってツバメのようにボランティアという巣に戻ってきてほしい」という願いが叶いつつある状況にもあります。

現在の問題点として、希望者が多く、中学 2 年生からしか受け入れができてないという状況を受け、キッズ部門として学 1 年生までの児童を受け入れ、中学 2 年生からのつばめ塾へと繋いでいく役割を担う事を想定しております。

【みんなのキャンパス】

『地域とファミリーを「楽しい」で繋ぐと、もっと子育てが楽しくなる』を合言葉に、八王子で子育てをしていることが誇らしく嬉しくなる 1 日にしたい、そんな街の活性化に繋げるためのイベントを2014年から開催。イベント名「みんなのキャンバス」は、真っ白なキャンバスに何でも描け何色にも染められるように、それぞれのファミリー・子どもたちが、自分たちの色で、のびのびと過ごせるようにという思いからつけています。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ステイホームが呼びかけられた2020年5月には、いち早く zoom を使用した「離れていても繋がる」オンラインイベントを開催。八王子市内だけでなく、北海道や京都、全国にその輪が広がりました。また、2020年冬には、八王子市横山町にある夢五房に「みんなのキャンバス広場」をオープン。年に1回のイベントだけでなく、いつでも地域や商店街、おじいちゃん・おばあちゃん、活躍したいママやパパとファミリーが繋がれる、楽しい場を計画中です。

来場者数(主催者調べ)：2014年 6,500人、2015年 20,000人、2016年 20,000人、2017年 3,500人(雨天開催)、2018年 15,000人、2019年 17,000人

後援：八王子市、八王子市教育委員会、八王子私立保育園協会、八王子私立幼稚園協会など

協賛：医療法人社団光正会 平川病院、医療法人社団 CSDS など なくに歯科 など

【ファミリーフードバンクファーム】

理事長鈴木が経営するファミリーレンタリース(株)では、農地に作物を植え、子ども食堂、食堂配布、フードバンクへと寄付する活動を行っています。当法人として、この取り組みを一緒に行い、各事業の連携の場としても使用予定です。例えば、食料配布や居場所の受益者である子ども達を畑へ招待し、様々な生き方をしている大人と一緒に農作業をすることで、親からは得られなかった世界観を知り、畑の場所では役割を担ってもらう事で、助けっぱなし、助けられっぱなしだけでない関係の構築を目指すことができるのではないかと考えます。

そして、種まきから収穫、調理して食べる事や寄付といった一連の流れを体験することで地産地消を体感し、一次産業を担う事の価値を普及啓発していきたいとの思いもあります。

また、里山を利用し、畑と冒険遊び場を組み合わせた場所の展開なども検討中です。

【音楽事業】

当法人はチェロコンサートコミュニティ(CCC)として活動してきたNPOを継承する形で生まれています。音楽の普及活動(チェロ体験のアウトリーチなど)や、他事業と連携して音楽と触れ合う場を広く一般に提供していくことで、生の音に触れる豊かな時間を生み出し、同じ活動でも差別化できると考えます。具体的には畑の作業の合間に青空コンサ

ート、みんなのキャンパスでは駅前広場での演奏、無料塾やみんなの食堂の臨時イベントとしての音楽体験などを想定しています。

また、それ以外にも CCC のもつ音楽家ネットワークなどを通して「音楽家」として生きる人物に直接出会うという体験も、他事業の受益者や広く一般市民に提供できるのではと考えます。

*以上ダットタッチホームとしてスタート時に作成した設立趣意になります。

つばめ塾キッズは使用予定だった会場がコロナ渦で状況が変わったことなどもあり、子どもの放課後居場所を宿題の見守りの場としてスタートしています。

居場所事業については東京都福祉保健財団の助成を受け（2022年採択）国道20号沿いの放課後居場所と、公開空地での公園あそび、八王子川口の里山でのツリーハウスづくりを「あそび場だっとっち事業」として展開中。ファミリーフードバンクファームでの野菜収穫体験などもあわせて開催しています。

また、さまざまな子ども達と関わる中で発達に心配のある親子の問題も散見されることから、光生会平川病院と協働し地域から孤立しない為の情報発信のサイトも準備中です。

2023. 5. 23 事務局長 青井夕美